

種山ヶ原は今 59

ヤマナシは豊作です！クマ達も喜んでいるでしょう！



種山ヶ原には少なくとも 50 本程ヤマナシの木があり、今年は豊作です！11 月の中頃には熟し、甘い香りが漂い始めるでしょう。彼らの臭覚は鋭く、一晩でほとんど食べつくします。食べた後の木には少し残っているので、食べてみると実に美味しいです。次号で食べつくしたこの木の写真を掲載します。

山ぶどうはあまり見られません。人間様か、動物か？ドングリは毎年見ているのですが落ちていません。というより動物が増え、食べられてしまっているでしょう。

今年の草刈りももう終盤！

今年 3 回目の草刈りが始まりました。市道 1.5 k m はヨメナやアザミの花を残し、駐車場の周辺を終えました。賢治の森は遊歩道を教育委員会の方々が刈ってくれたので、アザミがいっぱい咲いているので、周辺を刈っていましたが、アザミの花も終わったので、さっぱり刈ってしまいました。

物見山はレンゲツツジの周りを刈る程度で終え、来年を待ちましょう。草刈りをしていると、長野県佐久市の人一人上がってきました。「草刈りの音が聞こえたので、熊は大丈夫だなと安心して来た」と言う。天気の良い日だったので、周囲の山見えて喜



んでいました。私達も気持ちの良い草刈り日和でした。最終は、残した花の枯葉の処理で、今年も終わりますが、駐車場の土手の部分のレンゲツツジ保護の取り組みが残っています。



薔薇「雨にも負けず」

薔薇の新品種で宮沢賢治の「雨にも負けず」に因んだバラがあるという。病気に強く育てやすいとか。五輪峠の近くにあるガーデンに咲いているので、是非どうぞ！

このガーデンの主人高橋誠さんは、庭園も夫婦で長い間広げて、今尚楽しみながら造園を続けています。大きな公園になると思います。この庭園は戦争前まで金山の精錬を行っていた所とか。夜になるとキラキラと輝くとか。本当かな？ ホタルのことかな。

彼は元々大工さん。器用な方で敷地内に展示館があり、色々な木工品が展示しています。私も彼から息子たちの木馬などを頂きました。



「風野又三郎」と「風の又三郎」

「風野又三郎」のことを聞いたのは、20年程前に大江先生から「星の楽校」を水沢宇宙遊学館で開催した時のような気がする。お話の中で、「又三郎が緯度観測所に飛んできて、木村栄博士がテニスをしているのを見ていたんだよ。」等を聞いたことが初めての様な気がする。以前にも読み始めたが、難しい漢字もあり読み切ることができなかったが、思い起こして、1ヶ月ほど前から二つの作品を読み比べてみようと思い始めたが、「風野又三郎」は初めて見る漢字もありやはり大変だった。自分が知っている「風の又三郎」とは内容は似ているが、又三郎から感じるものとはかなり違っているように思えた。

比べてみたので、ご意見をください。

「風野又三郎」と「風の又三郎」

	「風野又三郎」	「風の又三郎」
書いた時期	大正 13 年(1924) 生前未発表	昭和 6～8 年(1931～33) 没後 1934 年出版
概 要	初期童話群に入る	初期作を元に、今風の転校生の物語に変わる
主人公の違い	「風の精」そのものが主人公	「転校生・高田三郎」が主人公彼に「風の精」の気配が重なって見えている。
内 容 〈はじめ〉	幻想の世界。「風の精」と児童との交わりが中心。 「どっどどどどうど どどうど どどう、 <u>あまいざくろも吹きとばせ</u> 」	謎めいた転校生の存在と実際の学校生活が交錯する内容。 「どっどどどどうど どどうど どどう、 <u>青いくるみも吹きとばせ</u> 」
その他		「種山ヶ原」「種山ヶ原の夜」「さいかち淵」等を使い、編集されている

是非読み比べてください。

「種山ヶ原」と「大森山」



北上山地に連なる「大森山」と「物見山」には色々な歴史がありました。

大化の改新(645)以降朝廷側の辺境の開拓が始まり、特に黄金の豊富な蝦夷の地東北へ制圧の力を強めていきました。その大きな第一歩が多賀城築城でした。

しかし、朝廷側の武士達に東北人の意気を示してくれた人が『人首丸』でした。彼の名が、明治二十二年米里村なる時まで人首村として明治時代まで続きました。しかし、彼の名前が地名川の名、学校名として残っています。

平安時代延暦 2 1 年(8 0 1)

胆沢平野の雄アテルイとモレは蝦夷の平和を優先し、坂上田村麻呂に降伏しました。しかし、京都で処刑されてしまったのです。そのことに人首丸は朝廷と戦う決意をし、大森山を決戦の地として立てこもったのです。

朝廷側大将坂上田村麻呂の娘婿田原兼光は、戦勝祈願^{うどう}し烏堂山頂に八咫鴉社を、火石に八雲社を創建し、戸中、山大畑、山本、物見山から挑んだものの人首丸軍の凄まじい抵抗に4年もの戦いが続いたのです。

しかし、大同元年（806）人首丸もついに敗れ、処刑されました。敵大将の田原兼光も若き闘将人首丸の死を悼んで大森山に祀り、観音像を刻み、大森観音堂を創建したのでした。しかし、彼の名は人首村と村名や学校等として残っています。

それ以降江戸時代から昭和時代まで軍馬の補給基地として、明治になると麓の人々の放牧地として使われ、初夏になると放牧に、秋には草刈りをし、その草束を馬に載せ、それぞれ家に連れて帰る行列が延々と続いたらしい。今尚種山ヶ原は、戦後馬から牛に代わり放牧と草刈りの場になっている。昔と違うのは草刈り風景である。



宮沢賢治詩碑「人首町」 の詩が読みやすくなりました。

10月10日朝日があたると光って見えにくかった詩碑に、小菅石材店のご夫妻が忙しい中時間を見つけて詩碑の文字に白い色を入れてくれました。連絡があって詩碑に行くと少しずつきれいに文字が見え始めていました。午前中色を入れ、乾くのを待っていたのです。全体が見えてくると経費が心配で聞いてみると「ボランティアだ!」という。きれいに見えるようにしていただいたことだけでもありがたいのに、ただではいけないと思いました。少しの謝礼でご好意に甘えることにしました。本当にありがたいことです。尚、夕日を背にきれいに撮りたいと試みましたが、技術が伴いませんでした。是非行って見て下さい。



多謝!